

堤正勝編  
兒訓必讀

卷五

176  
3  
130

大日本教育會書館			
一	三	一	九
六	五	四	函
冊	號	架	類

明治十九年六月四日 内務省官報附

見訓必讀卷五

成人の

東

京

義務

隄

正勝編

第一 自身に對する義務

○上たる人小い。敬禮をつくり。下

たる人よは己に親まむべし。陸

珩

身敬

見訓必讀

卷五

一

一

一

一

○人お行ひい。常に身をひきさげ。禮儀を守るべし。又法度を守り。犯ことなふるべし。李光地

○よく身お脩るものい。かたく道を守り。道あらぬ事い。少したりとも行もぬ。陳眉公

○事と行ふにい。常小道に志たが

心正

ひ。詞とのぶるにい。理にたがをす。誰に對しても。心一様なるべし。韓詩外傳

○心に欲なければ。義理を失えず。心小私おけまば。人と疑もぬ。名將言行録下同ト

○心に驕りなければ。人をうやま

ひ心にあやまりあぐまば。人を懼れぬ。

○心に邪見なけまば。よく人をそだて。心ふ貪りふければ。人に諂えず。上杉輝虎

直正

○家業とば。正路に勤むべし。ひが事をなして。利を貪るべからず。家

忍堪

道訓

○邪なる事い。必を悔どと思へ。如し邪ある事をすれば。必己の身を誤る。朱子治家格言

○ぬかく慎むべきい。怒れ一事なり。怒い人を傷むして。反てわが身にまごそひす。王震澤

○心に怒りふければ。言語やもらかよ。心に堪忍あまば。よく事ととのふ。上叔輝虎

○家人は對しては。堪忍を第一とす。心になをぬ事ありとも。深くせめざる處し。清人

○親族家人よは。心に合ざる事あ

懲勸

りとも。うらみ怒るべうらす。うらみ怒まひ。再び親とがたけまばなり。家道訓

○善と積ことい。目ふ見えずして。いつとなく大なること。人の成長まらる如し。董仲舒

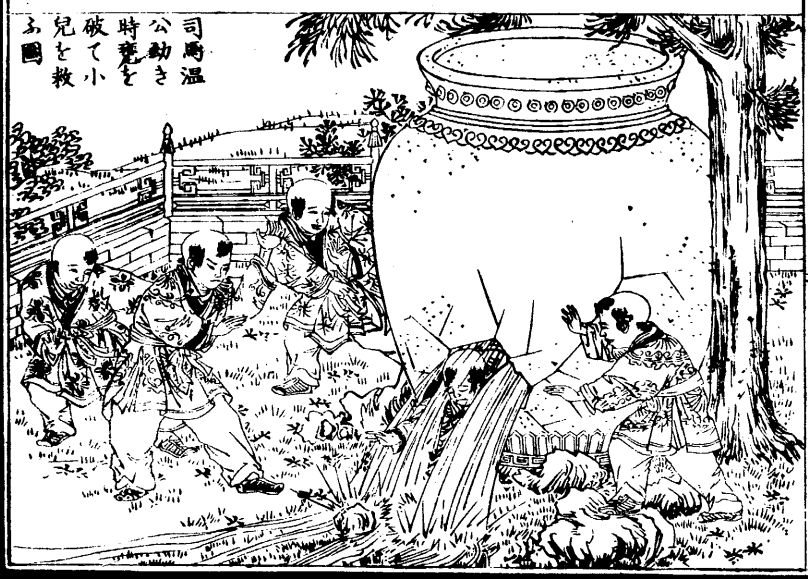
○惡を積まとは。目よ見えずして。

惠慈

一命をちぢむる  
こと。燈火の油を  
尽らすが如し。同

上

○慈悲の心より。  
いでたる智慧い  
まこと此智慧な



司馬溫公幼き時羗を破て小兒を救ふ圖

り。慈悲なき智慧い。まことの智慧  
にあらず。東照宮御遺訓

○人の喰ふべき物。又用るべき道  
具などを。己、不用なりとて。わけも  
なく棄べらるらば。童蒙と一草

○何品もよらず。ほりひ餘るもの  
あらば。難澁の者に與ること。人た

慎勤

る者の本意なれ。同上

○家業と勤れば。必富をなす。身を  
慎めど。必まごはひなり。勤慎の二  
字忘るべからず。家道訓

○勤ることい。勞苦と忍ぶにあり。  
勞苦と忍び勤れば。貴もいやしき  
も。家必とくのふ。同上

○まぐれ一人い。ひまなく勤め。少  
も怠らず。益なき事に。心を奪えれ  
ず。唐人

○勤て得たる利い。まことの利益  
なり。勤ずして貪れば。利と得ると  
いへども。害ありて益なし。大和俗訓

○職業のねほへあるい。田地をも

てると同じ。能く  
つとむるべ。飢を  
免る。以下童蒙をへ草

○農業とむるに  
人のねる間よ  
はたらきて多く  
作りて多く收め



宋の陸龜蒙農  
業とつとむる圖

よ。同上

○仕事多くして。吾力にあまると  
も。一心よつとむれば。大なる功を  
なす。同上

約儉

○富をふす道は。もたらきと儉約  
となり。みどり又光陰を費をなすの  
れ。みだりに金を費すなり。童蒙



と一草

○もたらきと。儉約とを棄れば。成るべき事をなく。もたらきと。儉約とを守れば。成らざる事を。同上

○心のきよき源の。衣服などの華やりに。人より美しきを。好まざるに在り。韋家琳

○儉約をすれば。金錢に不自由なし。又人に手をさげて。願ふこと少し。劔掃

○足ることを知らざれば。財を費すこと。必分限を過ぎ。終よの人は財をか。家と失ふにいたる。家道訓

○人の困窮にいたるは。家産の多

少によらず。不幸の事あるによらず。財を費とに。きまりなけきいふり。同上

○費すにきまり無しとい。身賤くして。貴き人を真似。家貧くして。富人と真似る故なり。同上

○愚なる遊び。あゝき慰とに。金錢

を費をい。徒らに金錢と。海の中に乗るが如し。童蒙といへ草

○一家となす者い。必不時の費ある也。日用の中にて。少づづ餘し置き。その費に備ふべし。家道訓

○家と治ることい。身と勤るを先とす。人を扱ふことい。柔和と本と

道家

已川公賣 卷五 八

す。宋仁宗

○家主たる人も。志と正くすべし。

志正ければ。家に邪惡の事をなし。王符

○家の主となりては。三族と親む

べし。家道訓

○夫の外を治め。妻の内を治むる

は。定れる職分なり。全上

○奴婢とつゝふ者。禮法をまも

りて。吾身を脩むべし。自然な人と

服せしむ。劔掃

○家人と扱ふに。非道ならざる

べし。非道よして。惠をなければ。家

久くさかへむ。陸凱

○一家の内。穩なると好しとす。

言葉戦ひなきやう。ふかく戒むべし。同上

○親先祖の定めたる家のきまりを。家法といふ。この家法を守るは。家を保つ道なり。家道訓

○家を治るに。下たる者どもの。苦む事と。其人の善惡とい。明に知

らざるべからず。同上

○家の年少き者を。悪事なき前に。きびしく戒むべし。悪事ありし。後い。ねさへがたりとす。同上

○きびしく戒るに。家法を正しく。自儘のふるまひ。なからむべし。不意の禍い。自儘より生むれば

兒訓必讀 卷五 金港堂

なり。同上

○家人に物と與ふること。常に  
心を用ゐる。必これに均くし。恨な  
らむべし。同上

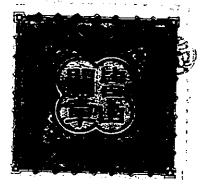
兒訓必讀卷五 終

明治十九年二月廿六日版權免許



編者并  
出版人

東京府士族  
堤 正 勝



麹町區飯田町六丁目十九番地

東京本町三丁目十七番地  
金港堂原亮三郎本廬

大賣捌

大阪北久賣寺町四丁目  
金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

賣捌

各府縣下代理大賣捌所